

数式処理 7 巻 1 号について

学会誌「数式処理」7巻1号は、6月に津田塾大学で開催された数式処理学会第7回大会の様と、大会講演の要約の掲載にあてています。大会では、学会の名誉会長の一松信前会長の特別講演「数式処理の思いで」がありましたので、一松先生に御講演内容をあらためてまとめ直しいただき、今号に掲載させていただくことが出来ました。日本の数式処理研究の出発の頃の状況を拝聴し、現在の私達の計算環境等をみますと、その相違に驚くことが実に多くあります。学会講演は多岐に渡っています。これらの中のいくつかは完成の域に近く、いくつかはアイデアの域を出ないものも含まれているように思えますが、講演者等の努力で一步でも進歩した新しい研究につながっていくことを期待します。

大会ではまた数式処理学会の役員選挙の結果が発表されました。それにともない、本来ならば学会誌の担当も大幅に変更するところですが、まだ「数式処理」の再建途上でもあることから、編集担当は基本的には前年度と変化していません。編集委員会も前年度と同一のメンバーで進んでいきたいと思っています。編集委員一同、気持を入れ換えて学会誌の定期的刊行のための体制の確立と学会誌の内容の充実に向けて努力を重ねたいと思っておりますので、会員諸氏の一層の御協力をお願いします。